

ムシたちの夏（夏空に舞う④/男はつらいよ、オオムラサキ求愛編）

雑木林にオオムラサキのメスが姿を現わすのは、オスの登場から数日後となります。メスの飛翔は、羽ばたく音が聞こえてくるほど豪快で力強いです。

メスが登場するとオスの活動が活発になり、雑木林は賑やかになります。オスがメスを追いかけて飛び回るからです。

メスの飛翔力について行けるオスが求愛の権利を得られるようです。メスを獲得しようとするオスの努力に感動します。



オオムラサキ（メス）

＜オオムラサキ求愛①＞

2020年7月中旬 樹液酒場で、オオムラサキの登場を待っていると、樹上から大きな黒い塊りがくるくると回りながら落ちてきました。落ちてきた塊りを確認しに行くと、オオムラサキのペアが睨み合っていました。

12時42分：オスがメスの後ろに回り込もうとしますが、メスは後ろ取られまいと体を回します。数分の間にオスは、この行動を14回も試みました。



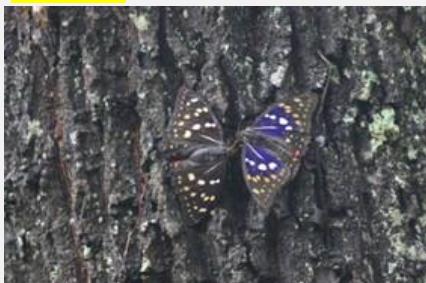
12時45分：竹の柵に場所を変えて、睨み合いが続きます。疲れているのでしょうか？睨み合いは1分ほど続きました。



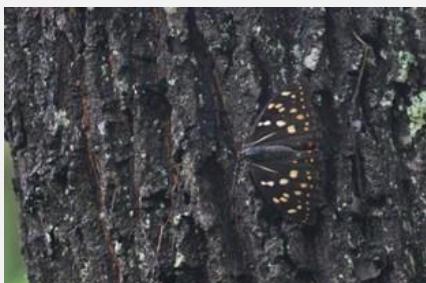
12時46分：竹の柵からクヌギの幹に移りました。緊張した空気が漂います。



12時47分：オスは、メスの後ろに回ろうと行動を開始しましたが、メスが体を回して上手くいきません。



12時48分：幕切れは、突然訪れました。オスが、諦めて飛び去ったのです。

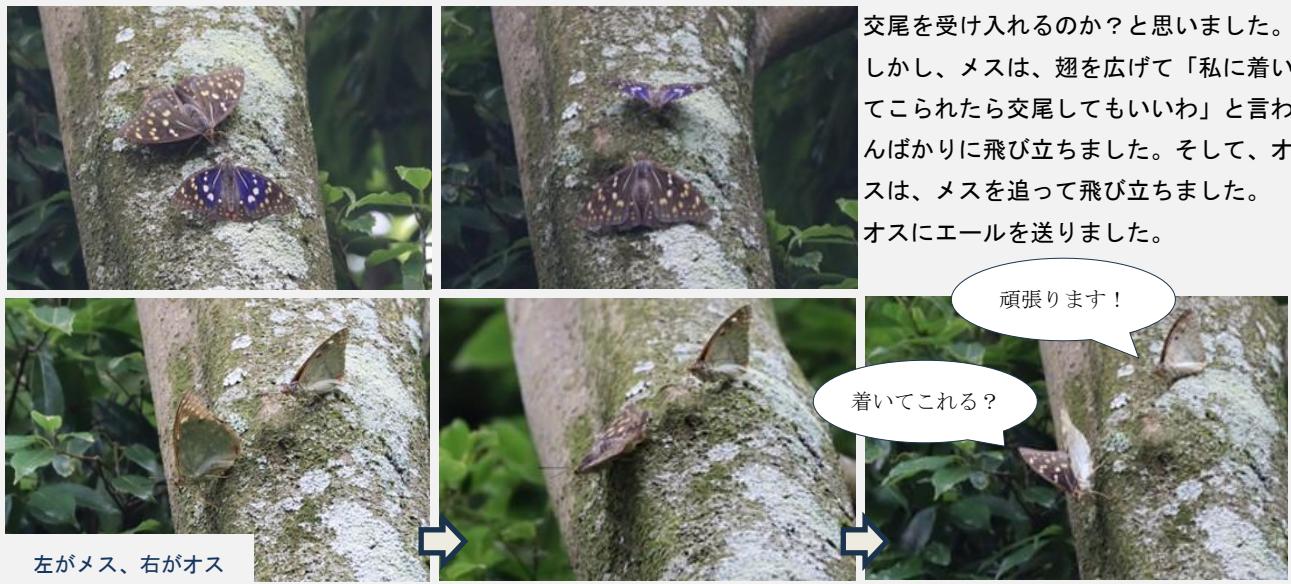


オスの求愛は、約6分でした。この6分の間にオスは、メスの後ろに回り込むことを20回近くも試みたのです。オスのメスの後ろに回ろうとする姿と後ろを取られまいと逃げるメスの姿は、レスリングの試合を見ているようでした。体が小さく、体力面で劣るオスの努力に拍手を送りました。

樹液酒場で戦い、メスと出会うと求愛する、夏の終わりにオスの翅がボロボロになっていることに納得しました。

<オオムラサキ求愛②>

2022年7月中旬 樹液酒場に隣接するカシの木でオオムラサキのペアが睨み合っていました。オスが、メスの後ろに回ろうとしましたが、メスはこれを軽くかわしました。その後、メスは、オスに背を向きました。



<オオムラサキ求愛③>

2022年7月中旬 樹液酒場でのワンシーンです。樹液を吸っているメスの近くにオスが止まりました。このオスは、メスが樹液に夢中になっている隙に交尾を試みたのです。もう少しというところで、メスに気づかれて失敗しました。この方法で、交尾が成功していたら、他のオスは怒るでしょうね~。



雑木林の近況 : 2024年7月19日



ナラ枯れにより伐採した材にタマムシが産卵に訪れていました。ここでは、コナラ、クヌギ、柿、エノキ、カシの木に産卵しているのを確認しています。連日35°Cを超える日が続いているが、タマムシが産卵する様子を見て、「季節が確実に進んでいる」と感じます。里山を整備している団体に材を2~3年保存するようお願いしました。

西野 孝法(千葉市)

『観察する』ということ

1 樹木医ならぬ『植生医』?

若い頃から悩まされてきた腰のトラブル。世の中ではよくジビヨージビヨーと耳にしますが、年齢を重ねつつある今日この頃、これをいわゆる持病と言うのかあ、と妙に実感するようになってきました。

最近も、症状が悪化したので、ある整形外科にかかりましたが、敢えて評判の良い先生を指名して予約しました。そして受診したところ、痛くないなら痛み止めは飲まなくていいです。歩けるなら〇〇薬は飲まなくていいです。しごれる姿勢が分かっているならその姿勢をしないように心がけてください。10年後も山登りをしてみたいなら、今やっている運動を続けてください。との診断。実に明快で、何だかモヤモヤしていたものが吹き飛んだ気がしました。ナ~ンダ、薬もりハビリも要らないンダ!!(あとになってみたら少し甘い認識でした)

茂原公園で保全活動を続けていますと、度々思います、目の前の状況、少し草刈りやツル切りをしようか、デモ余計なことしなくともいいんじゃないか、と。そして経過を観察してみる。

経過観察ツテ、医療関係でよく耳にする言葉です。植生や里山の状態を人の体に例えれば、私たちは、その状況を見極めて(観察して、診察して?)対策を講じる(治療する?)、いわば植生のお医者さん『植生医』?ちょっと偉過ぎ?もちろん、それなりの知識や経験が必要です。



2 人生色々、観察も色々

令和2年8月上旬、茂原公園でナラ枯れ被害木を初めて発見したのは、筆者が所属するA会でした。そして、それからひと月半ほど後、同公園でカエンタケを最初に発見(右写真)したのも同会、その後テレビのワイドショーなどで、茂原公園のカエンタケがよく話題になっていました。言うまでもなく、これらは継続観察の結果・成果です。



同会では、時折り会員に、「この状況を見て(観察して)、今日はどうしましょうか?」と投げかけて、できるだけみんなで考えるようにしています。それでないと、観察せず考えることもせず、ただ言わされたとおりの作業をするだけになってしまいがちです(会員によって程度の違いはあります)。もちろん、唯一無二の方法などありません。

最近も、「作業するだけでなく、自然を楽しみましょう」と、改めて話題にしました。「そもそも自然が好きで、自然観察を楽しみ、その結果として保全活動が必要と気づき、今に至っているんです」と。

別のB会のフィールドでは、イネ科やカヤツリグサ科の植物が多くて、その分野が(も)特に苦手な筆者は四苦八苦しています。まるで初心者そのものです。

下の写真は、左からカモノハシ(鴨嘴の意)、ネジイ(茎がねじれている)、コシンジュガヤ(小真珠茅の意)、イヌノハナヒゲ(犬の鼻髣?)と思われます。関連の資料を参考にしつつ、最初の3者は特徴など観察して調べてみて、たぶん正しいと思いますが、イヌ・・は今一つ自信がありません。コシンジュガヤには茎に翼があって、貴重種の近縁種にはそれがないらしいのですが、後者は今のところ見つけられません。猛暑の中、そこそこに育った草地でしゃがんで観察するのは、なかなかたいへんナンです。



3 丸坊主になったナツボウズ

C会が活動するフィールドでは、シカの影響で、有毒のトリカブトやトゲのある仲間が目立っています。一方、昨年初夏、ツルニンジンの存在に気づいて、周囲を囲い、その後の経過を観察することにしました。が、秋、何故か、それらしい姿が見当たりませんでした。

これらのこと踏まえて、自然観察路の設置を提案しました。会員から、それはイベントに備えて?とか、子供たちのために?などと質問が投げかけられました。そこで「イエ、私たち自身がこの森の様子を観察、把握するためです」と回答しました。別の会員から「(この森のことは)もう分かってるよ」とのご意見。そこで、「夏に開花するヤブレガサの花を見たことがありますか?」と尋ねたら、「ない」と一言返ってきました。

観察路の設置にあたっては、最小限の道幅で、斜面に沿ってジグザグに、緩い勾配で設定することにしました。その方が、直登するよりも斜面全体の様子が観察できます。このことは、若かりし頃、故山中寅文先生から教えていただいたことかも・・(正確なことは忘れました)。

今年6月、観察路沿いに赤い実がなっているナツボウズ(オニシバリ)を見つけ、目印として支柱に赤テープを巻いておきました。ひと月後、目印があったおかげで、丸坊主になったナツボウズが確認できました。夏になると坊主になるからと言われていますが、本当に坊主になった姿を見るのは初めてでした。坊主になったナツボウズを、何の目印もなく確認するのは至難の業と言えます。このことは、観察することの楽しさや、他からの情報でなく、自分の目で確かめることの大切さを物語っています。



坊主になったナツボウズ（赤テープの手前）

4 植生管理のPDCAサイクル

環境学習では、『気づきから行動へ』とよく言われます。そして『気づき』の前には観察することが不可欠です。『気づく⇒学ぶ⇒考える⇒行動する』などとする考え方や表し方もあるようです。

そして、『Think Global Act Local』。GlobalとLocalは無くとも良いかも知れません。

いずれにしても、自らの目(五感)で観察する、確かめることが不可欠、基本です。その対象は、地球環境だったり、生活環境だったり・・、動物や野鳥だったり昆虫だったり植物だったり・・。

このところ、周囲に、自ら観察することを忘れていたりと思われる事例がたまたま続いたので、改めてここで取り上げてみました。そういううちに、ふと浮かんだのが『植生管理(若しくは里山活動)のPDCAサイクル』。

Plan、『目標林型』と言う言葉もあります。俯瞰すること(全体的視野、長期的視点)も大切だと思います。そして Do、やってみないことには分かりません。その結果に、想定はあっても、正解はありません。

そんなふうに考えていくと、猛暑や腰痛で作業はたいへんですが、結果を観察し評価する Check、そして次への行動 Act、とてもワクワクしてきます。

アッ!! 猛暑と腰痛、気を付けましょう!
我が身の安全と健康あっての活動です。



今夏の茂原公園。個体数の増減がついつい気になります。

(記：茂原市 望月力智)

明日使える森遊び

「すべての子どもに自然を！～幼児期の自然体験がもたらすもの～」のテーマで、金沢学院大学藤井徳子准教授を講師に迎えて、千葉公園で行ったフィールドワークは新しい発見ばかりでした。

子どもたちが目の前にいる前提で、森に入る準備をします。森の中は危険があることを認識させる必要がある。そのため「危険だよ、気を付けて」では通らないのが就学前の子どもたちです。

そこで、「落ちた、落ちた」「なーにが落ちた」をもじって「出たぞ、出たぞ」「なーにが出たー」と畳みかけると「ヘビが出た」、「踏まないように逃げろー」と、うた遊びの中で危険物に対しての対処法と注意喚起を呼び掛ける。因果関係の理解には年月かかるが、意識付けが大事だということなのでしょう。

「ハチ」「キノコ」「ムカデ」「クマ」についても対処法がありました。

第二弾は小道具が出てきます。絵本「ふくろうのそめものや」、もともと色のなかつたカラスが色の注文をわがままに伝えた結果、真っ黒になってしまったという内容を読み聞かせ、線画だけのカラスが描かれた真っ白な画用紙にこれはと思う草花をこすりつけ、出てきた色で絵を仕上げるという課題でした。公園の中にはいろいろな草花があるため、いろんなカラスが出来上がりました。

第三弾はみちくさブレスレットです。ビニールテープの接着面を表にして腕に巻き、草花を貼り付けてブレスレットに仕立てるもの。松ぼっくりが接着しないと嘆いている人もいました。

第四弾は絵本「わたしのワンピース」を読み聞かせ、自分なりのワンピースづくりをさせます。絵本の物語はうさぎのワンピースが野原に出かけると咲いている花たちがワンピースに移って花模様になり、雨が降ってくると水玉模様、麦畑に入ると麦の穂模様になるというお話し。

うさぎのワンピースのようにワンピース部分を穴あきにしておいて自分の好きな模様を見つける。おそらく絵本の途中から子どもたちはどこの模様にしようか探し始めるに違いないのです。

第五弾はワンプレートメニューの開発です。森にあるもので「ワンプレートを作る」。これは二人一組で食べられそうなものを探しました。枯葉と雑草と松ぼっくりくらいしか見つからないと思っていたら、厚みのあるマツの樹皮はステーキになりました。ハンバーグでも行けそうでした。ステーキにフライドポテトとニンジンのグラッセが要ります。松ぼっくりはニンジンに化けてもらい、イチョウとケヤキの枯れ葉はフライドポテトになってもらいました。柔らかそうなみどりの葉はサラダに化けました。

集合してプレートを揃えてみると、工夫が光っていました。細長い葉をパスタに見立てたり、長細い樹皮はサーモンに化けたり、どれもおいしそうな料理に見えるから不思議です。大人がこれだけ楽しめるのなら、子どもはなおさらでしょう。

森を使ってこれだけ楽しめるのは他にないと思ったくらいでした。午後の講義で、ドイツの森のようちえん、日本の森のようちえんの事例を交えて紹介していただきました。

参加者からの質問で、森が楽しいのは当たり前と思う反面、森に入ることに抵抗がある方々には解きほぐす工夫が必要なのも、森遊びの役割なのでしょう。(松戸市 藤田 隆)



ワンプレートディッシュ

種から育てたダリア色々

借りている菜園が広いので野菜ばかり作っても老夫婦には食べきれません。4年前に花も良いかなと思って、ホームセンターで種の棚を見ているとヒマワリやコスモスに混じってダリアの種がありました。これまでダリアを種から育てた事はありませんが、一袋200円程度の金額でしたから試して見る事にしました。土壌が適していたのか一斉に発芽して、その後も害虫や病気の被害は無く、その年の夏から咲き始めました。冬に地上部が枯れますが、球根を掘り上げて植え広げると翌年には更に大株になり沢山咲きます。株ごとに花芸は異なり写真その一部です。お気に入りがあればそれだけを株分けや挿し木で増殖できます。



白一重小輪で多花



白八重にクリーム色を帯びる



薄ピンク一重細弁 弁先淡色



濃いピンク一重細弁



淡紫に濃紫の筋入り



黄色八重 丸弁



朱色一重 花芯黄色



朱色八重 弁先が濃



赤に白覆輪



緋色一重



赤一重



黒味を帯びた赤一重

花は初夏から晩秋まで、種は安価でお手軽ですから学校の花壇や公園にお勧めです。 佐倉市 坂本 文雄